

## TSA120 屈折望遠鏡の楽しみ方

桑田直宏

### 低倍率観望

天体観望の楽しみ方は色々あるが、透明度抜群の夜空を 25 倍～30 倍位の倍率で気ままに流すように観望するのも楽しい。最新のアポクロマート屈折に高性能アイピースのナグラ 31mm やイースス 17mm を取り付けて眺める星空は、視野周辺までピンポイント！しかも視野が 82 度～100 度と超広角になっているので、ツアイスサイズの狭い視野を体験した人には信じられないくらいの視野の広がりを感じられる。



目的もなく夜空を流していくと、恒星の配列や集まりに興味深い特徴を見つけたり、恒星の色が赤、青、黄色、オレンジと、紫と意外とカラフルであることに気づく。特にタカハシ 12 cm 屈折は、大口径でありながら軽量でとても気に入っている。星像はとてもシャープで屈折ならではのコントラストと相まって素晴らしい星空を味わえる。特にいて座からたて座あたり天の川めぐりがとても楽しい。

### 月の双眼視

月はどの口径の望遠鏡で見てもそれなりに楽しめる天体である。しかし 12 cm 屈折になると、月の地形のかなり詳細なところ、谷や月面の微妙な色の違いまで見えてきて興味が尽きない。特に双眼装置を取り付けて 150 倍前後の観望にはまっている。

初めて双眼視したときは、まるで宇宙船から顔を出して月面を眺めているような感覚になった。望遠鏡で見ている意識が消えてしまうのである。しかも長い時間でも疲れな、錯覚ではあるが立体的に見えるというメリットもある。月は双眼装置がなくてはならないものになっている。



### 惑星の観望

惑星観測にはまると、いくらでも大口径が欲しくなる。小さな望遠鏡で木星を見ると数本の縞模様が見える程度だが、30 cm 以上になると大赤斑の内部までわかる時があります。

問題はシーイングと鏡筒の温度順応です。大きな望遠鏡ほどこの 2 つに悩まされ、条件によっては小さな望遠鏡の方がよく見えることだってある。40 cm になると、その能力を発揮できるシーイングに恵まれるのは、年間数日ではないかと経験的に感じている。温度順応も大きな望遠鏡ほど時間がかかるのでなかなか使いこなせない。

私の木星観望の主力機は 12 cm 屈折望遠鏡になっている。惑星には小口径の部類になるが、ベランダに簡単に出して、そこそこ見えて、すぐに片付けることを考えると一番満足度が高い。それでも 12 cm になると、本当に実力を出すためには 2 時間は外気温に馴染ませる必要がある。これにナグラ 3-6 mm 接眼鏡を取り付けて木星を見るとびっくりすくくらいよく見える。最新のアポ屈折はすごいと思う。